

# 東海道五十三次を完歩

三島地区 林 敏彦

人が最初に泊まる宿場である。旅人泣かせの権太坂がある。行き倒れになる旅人も多かった。坂を上りきったところに「投込塚」がある。ここで亡くなった人を埋めた場所である。

箱根宿(十宿)箱根の山は「天下の険」「箱根八里は馬でも越すが…」とここは東海道一の難所で頂上に関所が待っている。「入り鉄砲に出女」といわれるが「出女」の取り調べが厳しかった。関所は昔のままの姿が復元されている。いまなお山越えはきついが、石畳道や、通行人を保護した杉・松並木道が続く。街道は昔の様子をしのべる貴重な場所でもある。

島田宿(二十三宿)「越すに越されぬ大井川」の渡し場で潤った宿。大井川手前街道沿に、川会所、川越し人足の詰め所など建築が保存されている。

袋井宿(二十七宿)は、東海道五十三次の「どまん中」ここでようやく旅路の半分を終えたわけである。

新居宿(三十一宿)「入り鉄砲に出女」共に箱根より厳しく、当時の旅人には難儀であった。全国で唯一、当時の建築の残る貴重な関所である。

赤坂宿(三十六宿)ここには、今も営業を続ける江戸時代の建築が残る旅館、「大橋屋」がある。往時の様子をそのまま留める部屋が二階に三部屋あるが、一組しか泊めない。ぜひ泊まってみたいとの願いがかなった。

岡崎宿(三十八宿)家康の生まれ故郷。複雑な力ギ型に曲がりくねった「二十七曲がり」の街道は、いたるところ家康の史跡だらけである。岡崎城から市内一望。三河武士のやかた家康館たつぷり見学。

鳴海宿(四十宿)織田信長が今川義元を奇襲作戦で倒した「桶狭間合戦」伝説地。記念公園に義元の墓や、資料館がある。関宿(四十七宿)関宿は、難所鈴鹿峠のふもとに繁栄した宿場である。東海道で唯一「町並保存地区」に指定されている。宿場に入れば、昔なつかしい町並が見えんと続き、江戸時代さながら

江戸時代に整備された五街道(東海道・中山道・奥州道・甲州道・日光道)は日本橋を起点として数多くの武士や町人が、ここから全国へ旅立った。  
そのひとつ、東海道五十三次を京都三条大橋まで仲間と踏破した。  
道中には険しい峠・旅籠が並ぶ宿場町、通行を取り締まる関所があり、大名行列や飛脚などの人々が往来した。  
今回はそんな街道筋で、今も残る歴史の面影を巡り歩くことができた。  
われわれの上洛への旅は、日本橋、銀座、新橋とまず都会の繁華街から歩き始める。品川宿は東海道最初の宿場である。  
戸塚宿は第五番目の宿、日本橋から四十一キロの道のり、江戸を発った旅



の旅館や、町屋、商屋が並ぶ。そのまま博物館のようである。また訪れたい宿である。

坂下宿(四十八宿)関宿を過ぎて、道の両側に山が迫りはじめ、そろそろ鈴鹿らしい雰囲気になってくる。箱根峠に次ぐ難所である。かつては険路のうえに、山賊が出るとして恐れられていた。山賊が旅人を見張り、待ち受けたという鏡岩は、山々を眼下に見晴らす絶景の場所にあった。

大津宿(五十三宿)京の都まであと三里、街道歩きもいよいよ最後になった。琵琶湖に出て、瀬田の唐橋を渡り、義仲寺に向かう。「木曾殿と背中合わせの寒さかな」の句が境内に立つ。背中合わせに並ぶ木曾義仲と芭蕉の墓を見ての句である。宿場をはずれて、逢坂峠に入る。「逢坂の関」が置かれた場所である。逢坂の関

